

# 令和4年度 海洋プラスチックごみ実態把握調査 (概要)

## 愛媛県循環型社会推進課

1

### 海洋プラスチックごみ実態把握調査

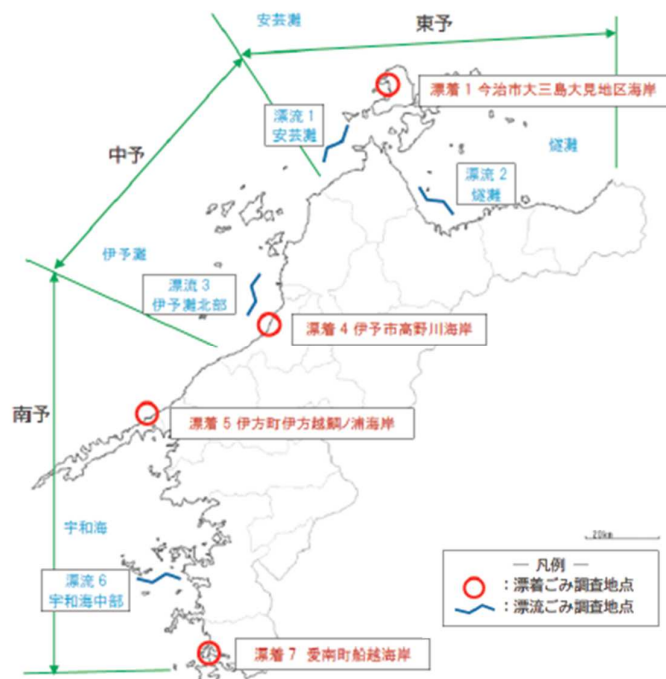
#### 1 調査地点

##### ①漂着ごみ調査

地域	調査地点	
東予	漂着1	大三島大見地区海岸(今治市)
中予	漂着4	高野川海岸(伊予市)
南予	漂着5	伊方越鯛ノ浦海岸(伊方町)
	漂着7	船越海岸(愛南町)

##### ②漂流ごみ調査

地域	調査海域	
東予	漂流1	斎灘(安芸灘)
	漂流2	燧灘
中予	漂流3	伊予灘北部
南予	漂流6	宇和海中部



2

## 2 調査時期及び調査方法

### 1 調査時期

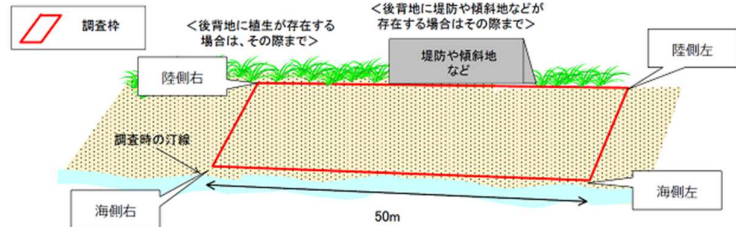
- ①漂着ごみ・マイクロプラスチック調査 令和4年10月19日、10月22日～26日
- ②漂流ごみ・マイクロプラスチック調査 令和4年10月17日、10月20日～21日

### 2 調査方法

#### (1) 漂着ごみ調査

調査範囲は、幅を50mとして、海岸汀線から海岸の后背地（植生があるところ）までとする。

2.5cm以上のごみを調査対象とし、回収、分類し、計測



#### (2) 漂流ごみ調査

船上からの目視等により漂流ごみの量（個数）、種類を観察

調査測線は、1本あたり約13.5kmのジグザグに設定

#### (3) マイクロプラスチック調査

ア 海岸部（漂着ごみ調査時に合わせて実施）

前年度の採取地点付近において、漂着ごみの多い部分を任意に2か所選び、一定の方形枠内の砂の中からマイクロプラスチックを採取し、性状等を分析

イ 沿岸部（漂流ごみ調査時に合わせて実施）

ろ水計を装着したニューストーンネット（目合350μm）を20分間曳航し、試料採集し、性状等を分析



3

## 3-1 漂着ごみ調査（個数）

- 全調査地点で「プラスチック」が最も多い。
- 船越海岸（愛南町）は最も個数が多い。
- 南予の2地点の平均個数は、東中予の平均の約2.4倍に上る。

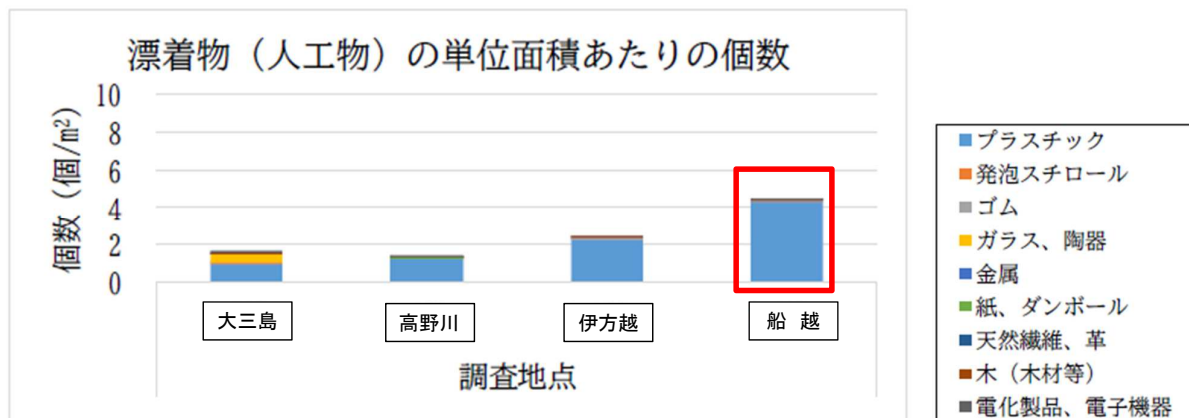


図1 各地点における漂着ごみの1m<sup>2</sup>あたりの個数(個/m<sup>2</sup>)

### 3-2 漂着ごみ調査(重量)

- 高野川海岸(伊予市)、船越海岸(愛南町)は「プラスチック」が最も多い。
- 大三島大見地区海岸(今治市)は「ガラス、陶器」、伊方越鯛ノ浦海岸(伊方町)は「木(木材等)」が最も多い。
- 南予の2地点の平均重量は、東中予の平均の約2.5倍に上る。

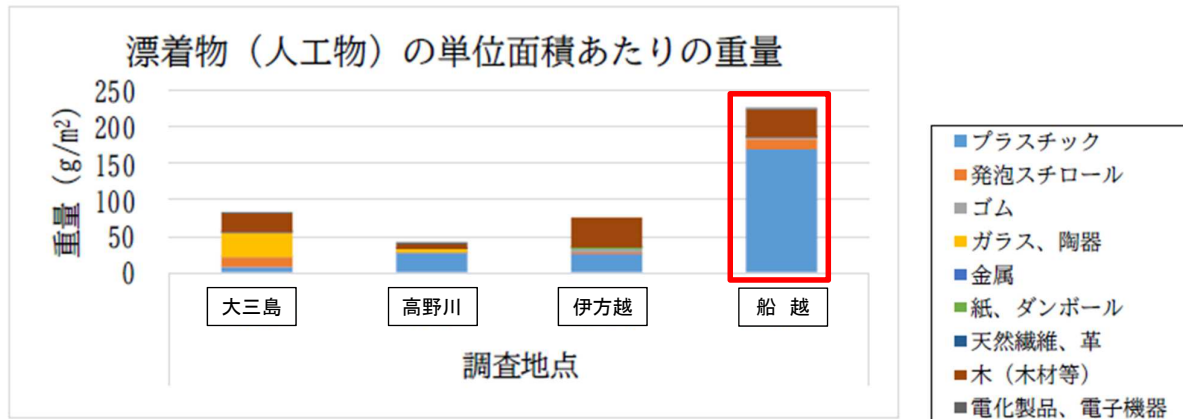


図2 各地点における漂着ごみの1m<sup>2</sup>あたりの重量(g/m<sup>2</sup>)

### 3-3 漂着ごみ調査(容積)

- 大三島大見地区海岸(今治市)と船越海岸(愛南町)では「プラスチック」「発砲スチロール」が多い。
- 高野川海岸(伊予市)と伊方越鯛ノ浦海岸(伊方町)では「プラスチック」「木(木材等)」が多い。
- 南予の2地点の平均体積は、東中予の平均の約2.5倍に上る。

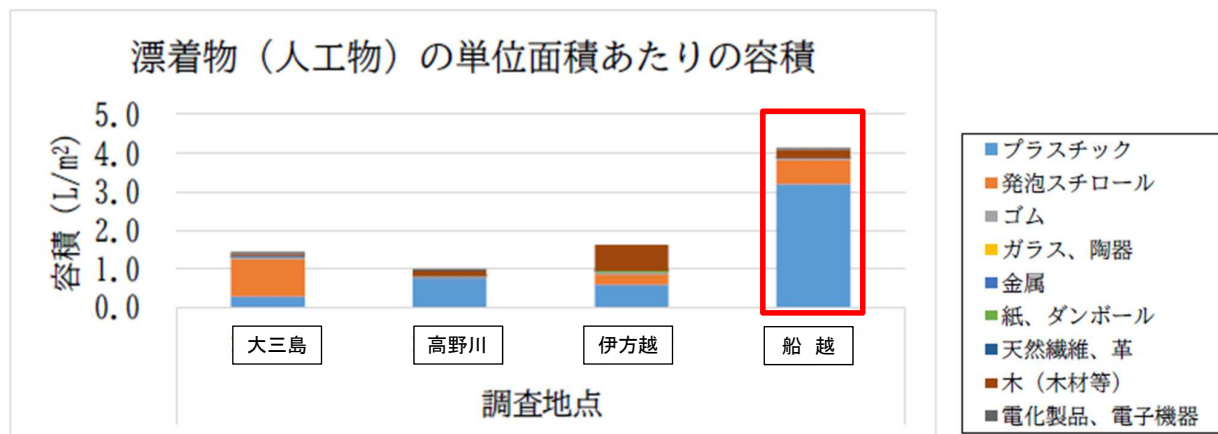


図3 各地点における漂着ごみの1m<sup>2</sup>あたりの容積(L/m<sup>2</sup>)

### 3-4 漂着ごみ調査(プラ分類の割合・個数)

●全地点でプラスチックごみのうち「海域由来」の割合が最も高い。

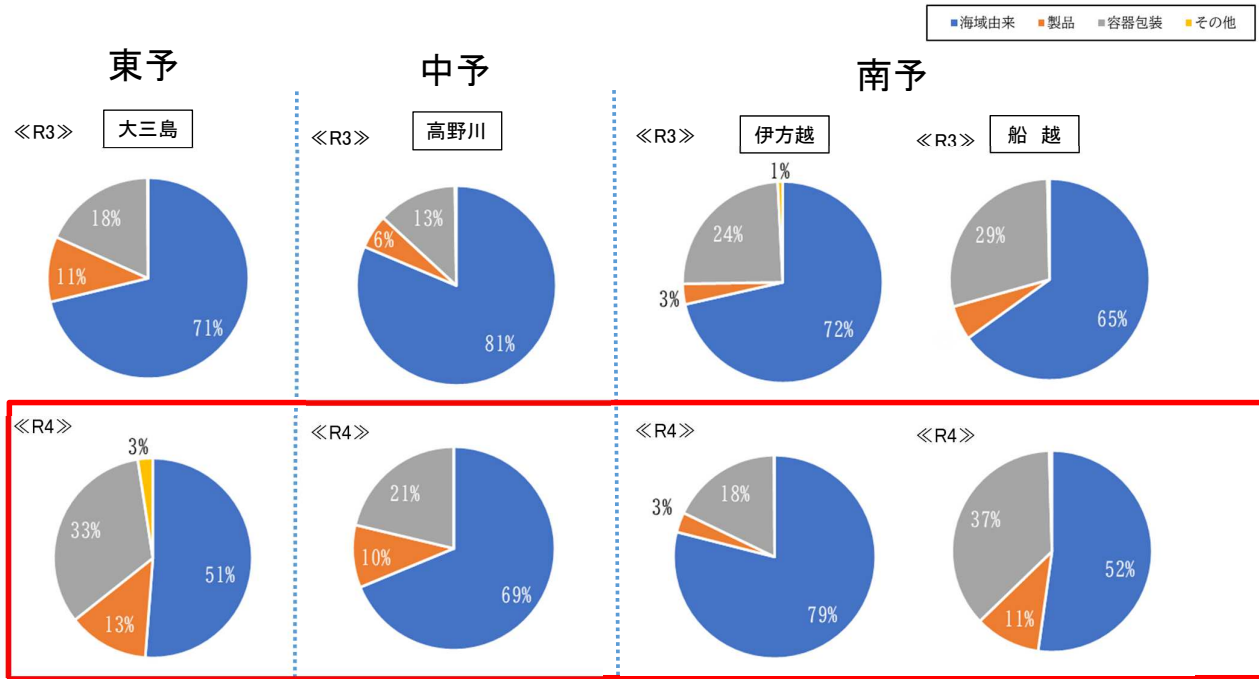


図4 漂着ごみの個数別プラ分類の割合

### 3-5 漂着ごみ調査(プラ分類の割合・容積)

●大三島大見地区海岸(今治市)、船越海岸(愛南町)は「海域由来」の割合が最も高い。

●伊方越鯛ノ浦海岸(伊方町)はいずれの分類も同程度の割合。

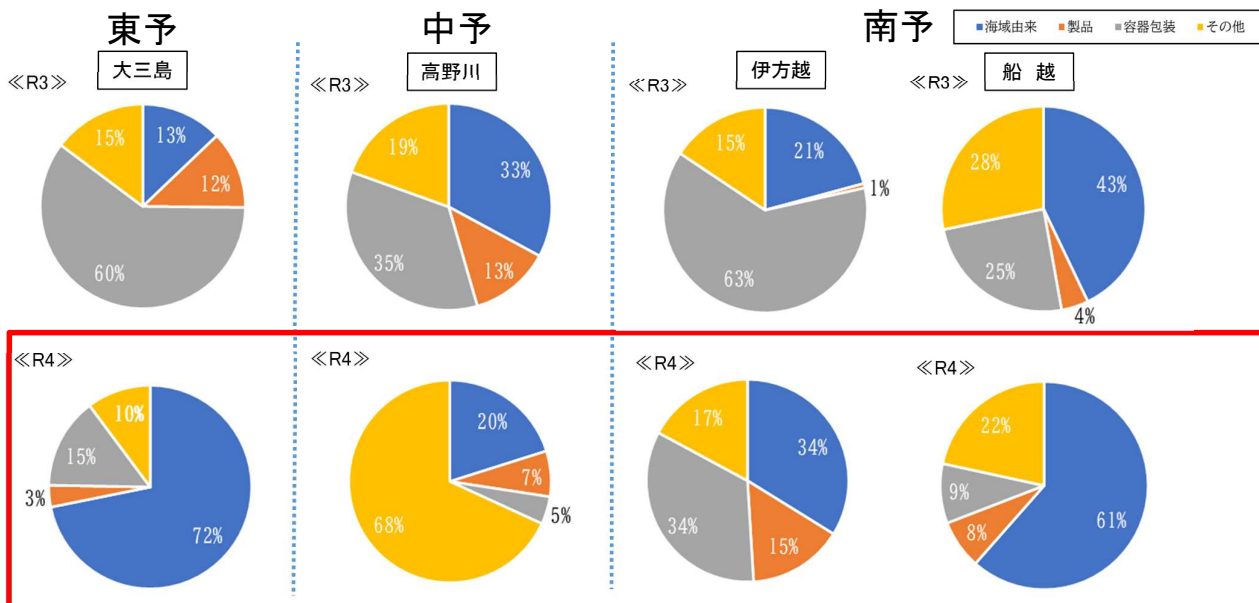


図5 漂着ごみの容積別プラ分類の割合

### 3-6 漂着ごみ調査(海域由来:個数)

- 全地点で「カキ養殖用まめ管」「カキ養殖用パイプ」の割合が最も高く、特に、瀬戸内海側の高野川海岸(伊予市)と伊方越鯛ノ浦(伊方町)では90%以上を占める。
- 令和3年度の結果と比較して、組成に大きな変化はない。

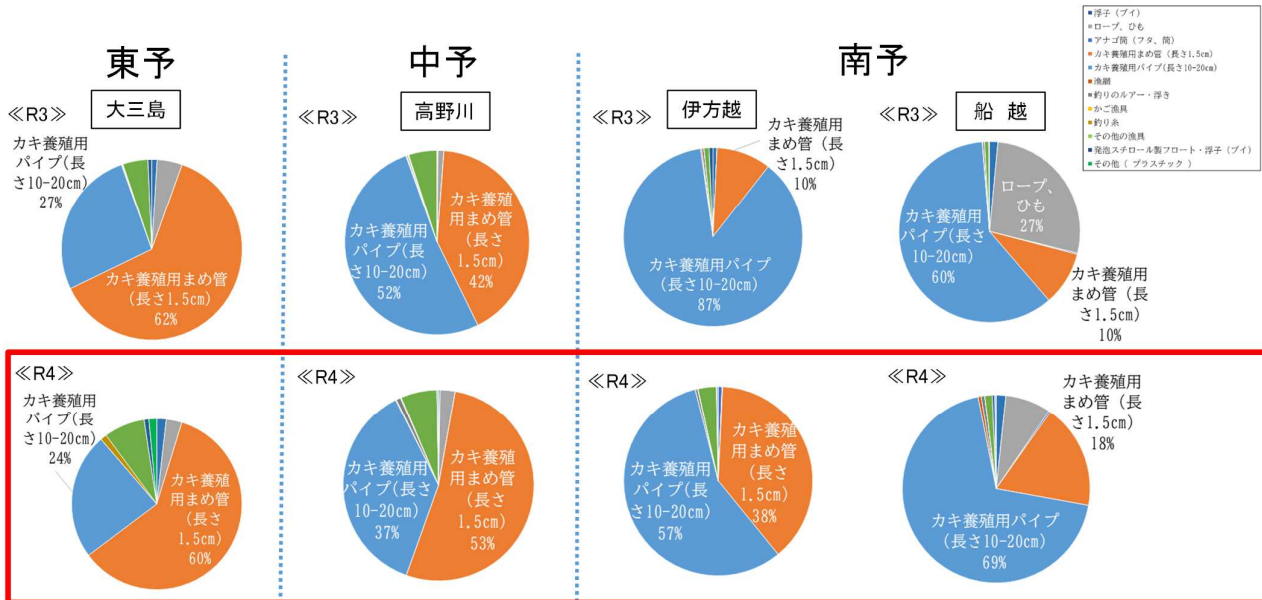


図6 漂着ごみの「海域由来」の個数別内訳

### 3-7 漂着ごみ調査(海域由来:容積)

- 大三島大見地区海岸(今治市)と伊方越鯛ノ浦海岸(伊方町)は「発砲スチロール製フロート・浮子(ブイ)」の割合が高い。
- 高野川海岸(伊予市)と船越海岸(愛南町)では「ロープ、ひも」の割合が高い。

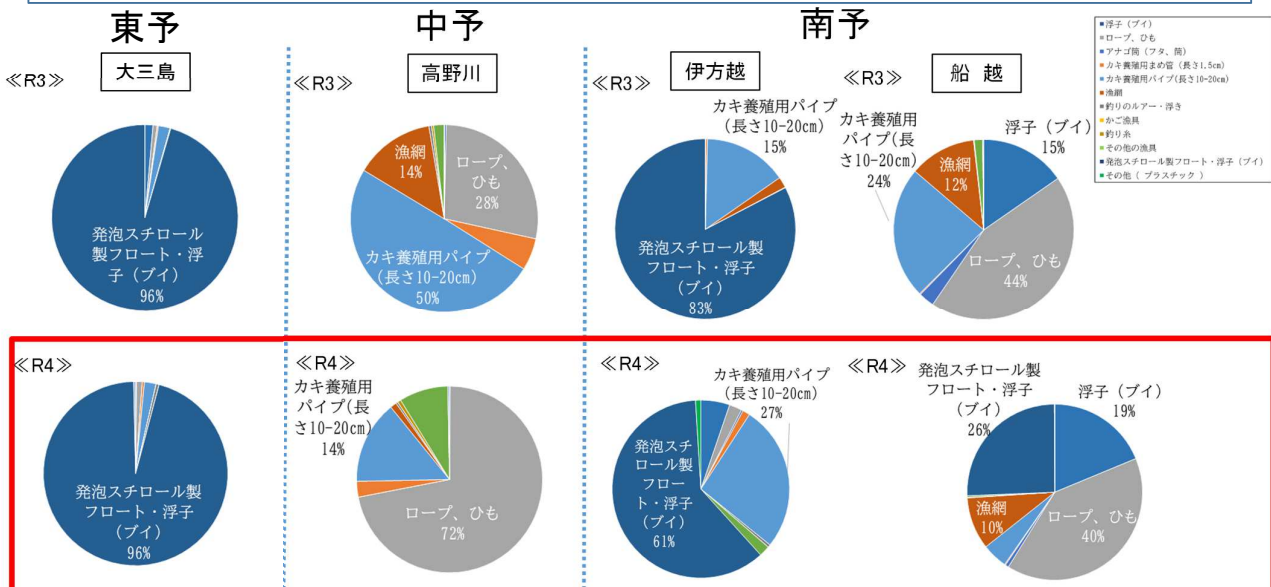


図7 漂着ごみの「海域由来」の容積別内訳

### 3-8 漂着ごみ調査(言語標記)

- 船越海岸(愛南町)ではすべての品目で「日本語以外」のものを確認。
- 船越海岸を除く3地点では「日本語」又は「不明」のものが多く、瀬戸内海の閉鎖性を示す結果である。

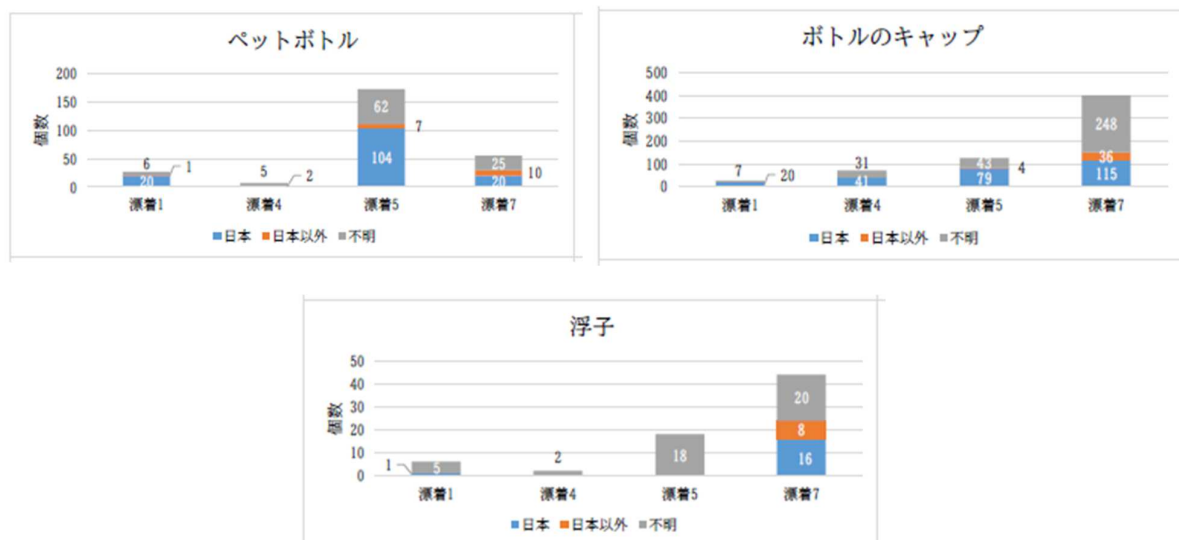


図8 漂着ごみの言語標記区分

### 4-1 漂流ごみ調査(発見個数:全体)

- 全体個数は、宇和海中部が最も多く、そのうち人工物が79%を占めている。

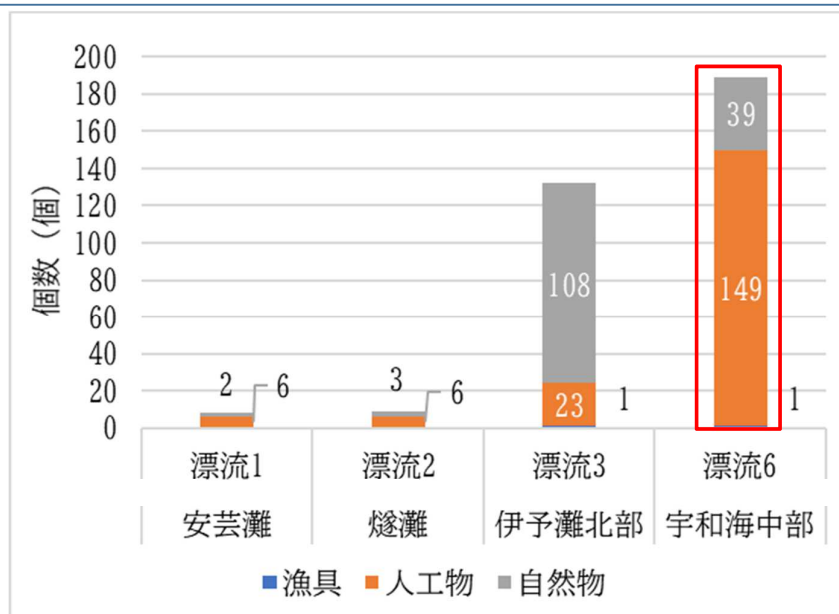


図9 漂流ごみの発見個数(全種類合計)

## 4-2 漂流ごみ調査(発見個数:人工ごみ)

- 人工ごみの個数は、宇和海中部が最も多い。
- 人工ごみのうち「漁具」は2地点で各1個しか確認されていない。

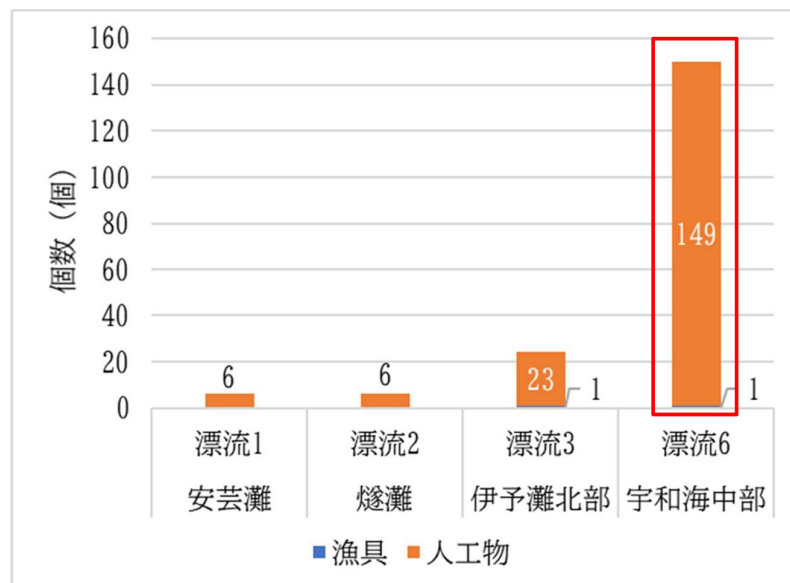


図10 漂流ごみの発見個数(人工ごみ[漁具・人工物])

13

## 4-3 漂流ごみ調査(漂流ごみの組成)

- 安芸灘と伊予灘北部では「その他プラスチック製品」の割合が最も高い。宇和海中部では「発泡スチロール」「その他プラスチック製品」の割合が90%以上を占める。
- 燧灘はいずれの分類の割合も同程度の割合。

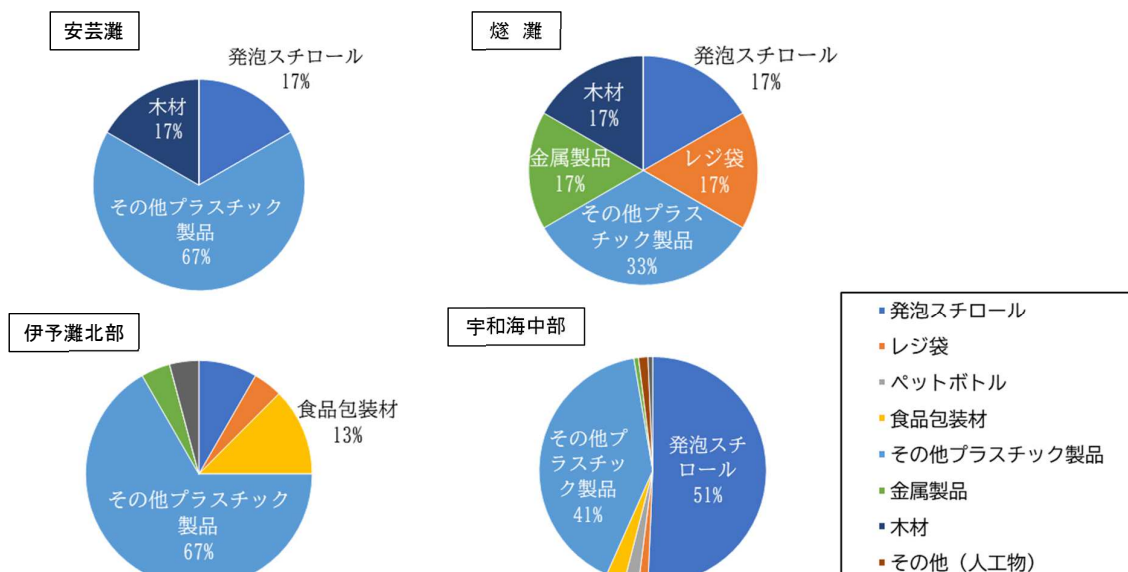


図11 漂流ごみの組成

14

## 4-4 漂流ごみ調査(個数密度)

- 「発砲スチロール」「その他プラスチック製品」いずれも宇和海中部で最も多い。

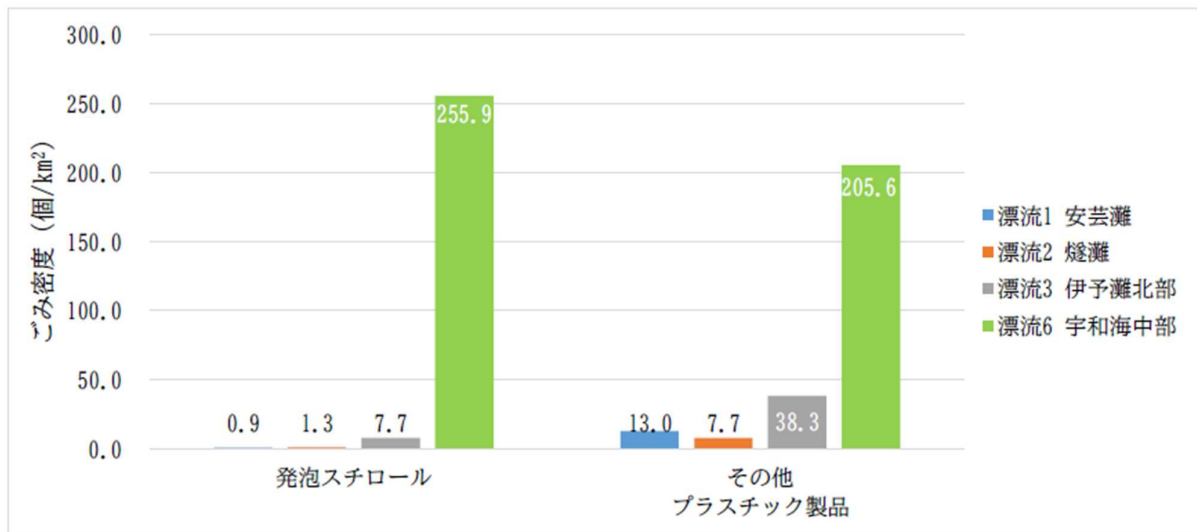


図12 漂流ごみのごみ個数密度

15

## 5-1 マイクロプラスチック調査(海岸部・個数)

- 大三島大見地区海岸(今治市)が最も多く、他の3地点の平均の約7倍に上る。
- 瀬戸内海側の高野川海岸(伊予市)、伊方越鯛ノ浦海岸(伊方町)は他の地点に比べて「発砲スチロール」が多い。

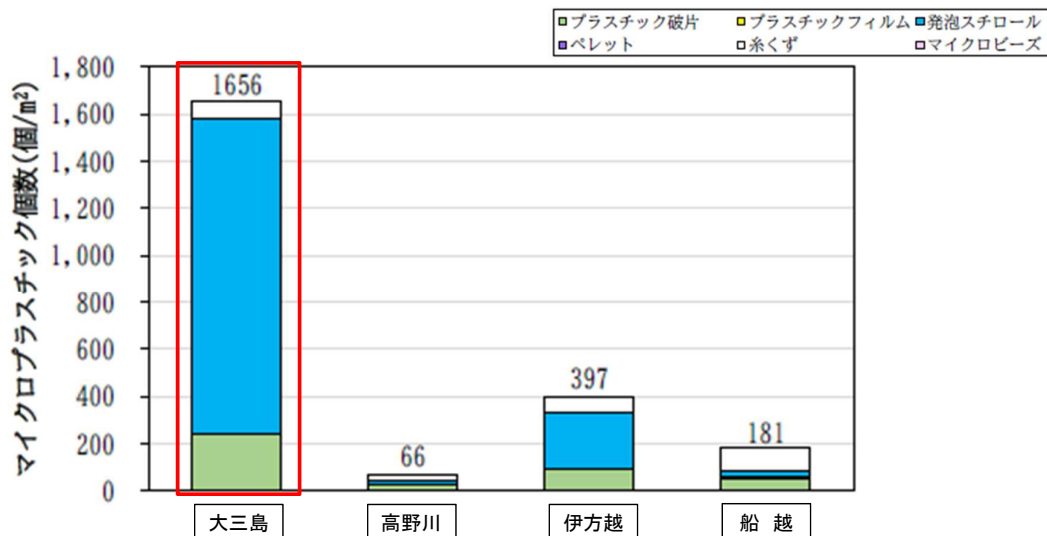


図13 海岸部のマイクロプラスチック調査の結果

16



## 5-2 マイクロプラスチック調査(海岸部・材質)

- 大三島大見地区海岸(今治市)、伊方越鯛ノ浦海岸(伊方町)ではポリスチレンが60%以上を占める。
- 高野川海岸(伊予市)及び船越海岸(愛南町)はポリエチレンテレフタレートの割合が最も高い。

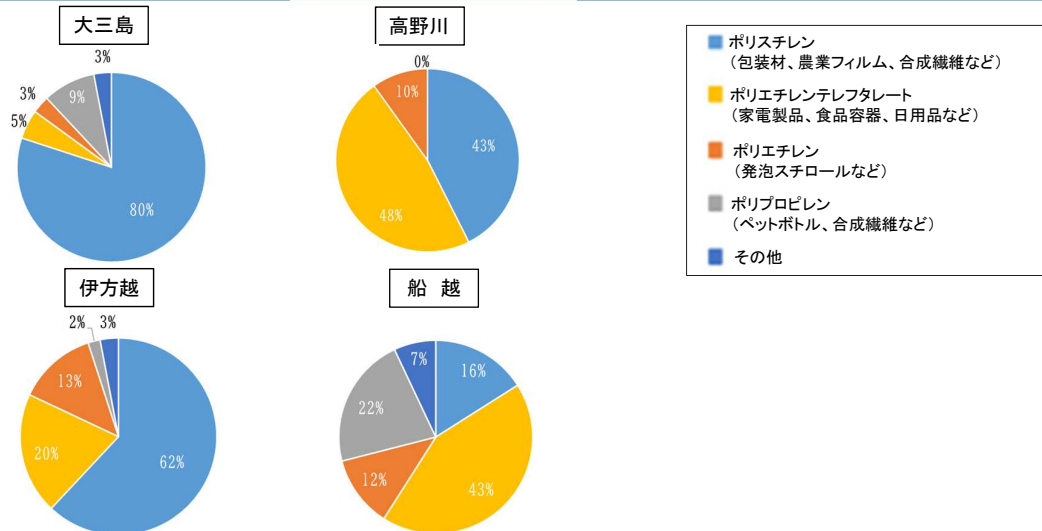


図14 海岸部のマイクロプラスチック調査の結果(材質別)

17

## 5-3 マイクロプラスチック調査(沿岸部・個数)

- 宇和海中部が最も多く、他の3地点の平均の約4倍に上る。

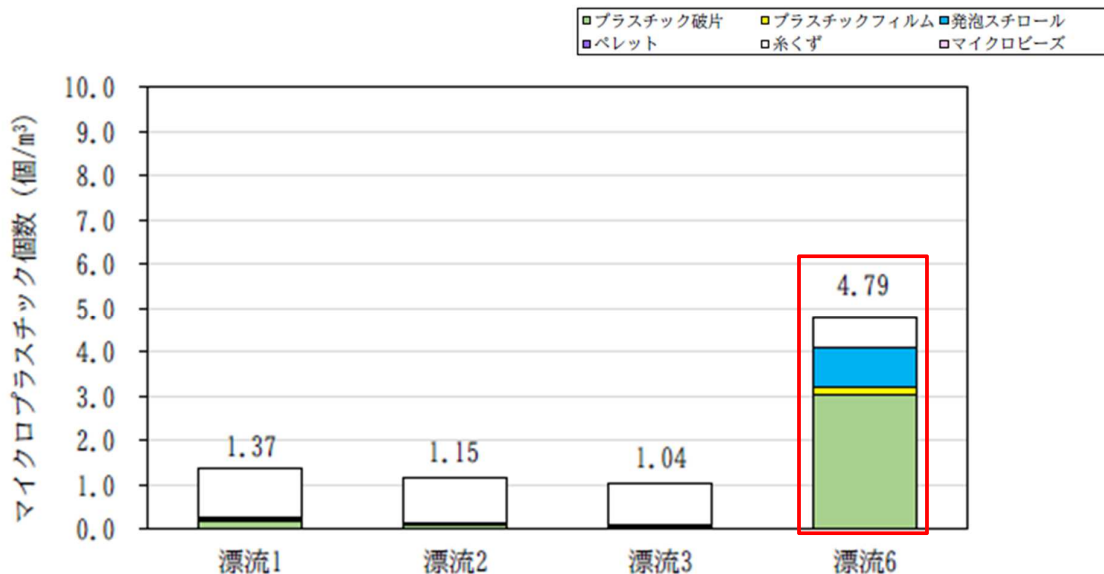


図15 沿岸部のマイクロプラスチック調査の結果

18

## 5-4 マイクロプラスチック調査(沿岸部・材質)

- 宇和海中部を除く3地点では、ポリエチレンテレフタレートの割合が最も高く、66%~81%を占めている。
- 宇和海中部はポリエチレンの割合が最も高く、他の材質も一定程度確認されている。

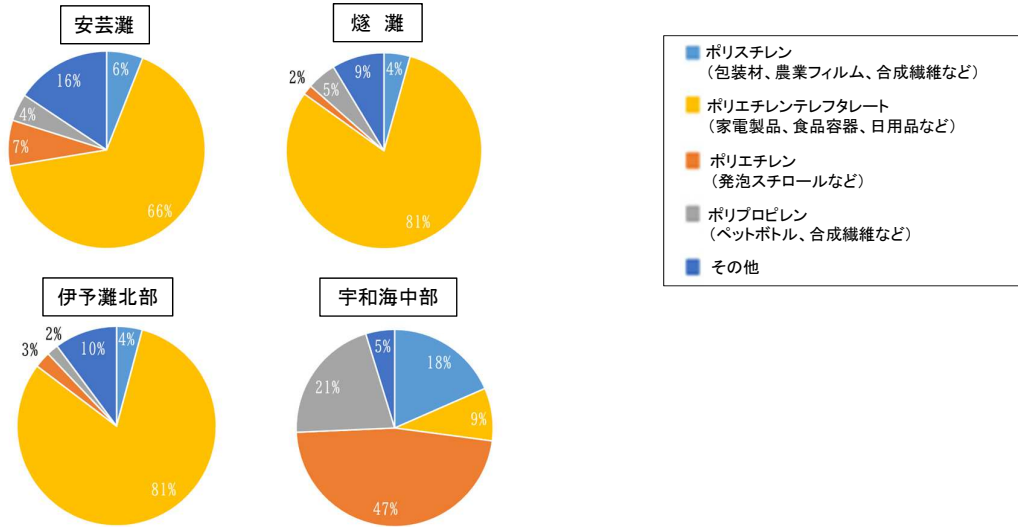


図16 沿岸部のマイクロプラスチック調査の結果(材質別)